

# 模範解答例(鉄骨造 × 合理化)

本工事は延床面積 3,000 m<sup>2</sup>、地上 4 階建て鉄骨造商業施設の新築工事である。工程短縮と作業効率向上を目的に、鉄骨建方における合理化を図った。

建物形状が単純な BOX 構造であったため、構造設計担当者と協議し、柱ブラケット位置で梁長さを調整することで、H 形鋼梁の長さを約 10 種類から 4 種類に統一した。これにより部材管理を簡略化し、部材探しや搬入段取りの時間を削減した。

さらに、大梁ジョイント部のスプライスプレートが施工時に干渉する課題に対し、開閉式となるよう改良したことで、高所での仮設作業が不要となり、1 スパンあたりの施工時間を約 20%短縮できた。

その結果、建方工程を当初計画より 1 日短縮でき、作業効率の向上と安全性の確保につながった。